

回覧 地域再生 協議会だより

事務局 百合が丘 2 - 29 - 6 (百合が丘老人憩いの家) 59 - 9356 (火、金午前)

友情の山・山百合に約 700 人 公開日設定などに課題も

一色小学校区地域再生協議会が 7 月末に開いた一色小友情の山・山百合公開への参加者は、4 日間で約 700 人に達した。一般の立ち入りが難しかった学校敷地内の山百合群生地公開は同協議会の第一弾事業として友情の山部会(岡村昭寿部会長)が取り組んできたもので、7 月 23、24 日、30、31 日の小学校夏休み入り後、2 回に分けて行われた。期間中の来訪者は横須賀や藤沢など町外にも及ぶなど初公開としては手ごたえのあるものになったが、公開日の設定や駐車場確保など次年度に向けた課題も残った。

友情の山部会は同協議会発足と同時に活動を開始し、6 月初めには一色、緑が丘、百合が丘の約 40 人のボランティアによる遊歩道整備を行った。その後、群生百合の支柱立て作業、公開日前日の山百合専門家の講演会も実施した。また、制作に東京ハイジを起用した開催案内ポスター(回覧併用)を町内の主要な掲示板に貼ったり、町広報を通じた PR にも力を入れた。全国紙、地方紙、タウン紙、CATV などが取り上げた効果も大きかった。町地域政策課や一色小には公開日時の確認、駐車場所などについて県内外からの問い合わせが相次いだという。



ただ、後半の 2 日間については花がしぼんでしまい、残念がる来場者が多かった。また、町外を含む広範な来場希望者からは駐車場の確保を望む声が寄せられた。一色小学校区内については回覧や掲示板を使った告知に努めたものの、十分に浸透したとは言えず、参加者もさほど多くなかったとの声もある。

友情の山部会では次回会合で第一回の事業内容を点検するとともに、次年度開催に向けた課題を整理する。その際には開催日程や期間中の誘導策などのほか、下草刈りや施肥、害虫対策、樹木の枝払いなど生育環境の管理などについても検討する。

「友情の山は、環境の整った貴重な自生地」

——富田・県植物園課長の山百合講演会開く

友情の山部会は 7 月 22 日(金)、山百合の育成・管理をテーマに講演会を開いた。講師は山百合の生態に詳しい富田裕明・県フラワーセンター大船植物園展示普及課長。会場の一色小会議室に約 50 人が集まった。富田氏は「盗掘やイノシシの被害で県内の群生地は数えるほどしかなくな

った。キンラン、エビネなど貴重な野草を含め皆さんの協力ですっかり守って欲しい」と語った。

講演と質疑応答の要点は以下の通り。

- ・山百合は大輪の花と匂いに特徴がある日本特産植物で、カサブランカは国産品の改良種。
- ・自生地は乾燥した明るい雑木林、草地、傾斜地、崖地を好む。
- ・発芽から開花まで早くて6年かかる非常にデリケートな植物で、2年目は球根を作るだけ、5年経ってやっと数枚の葉が出る。きちんと咲いているのはいずれも10年以上経っているものだ。
- ・神奈川県の花であるのでかつて組織培養で群生地を増やす試みが行われたが失敗した。人工的に増やすのはきわめて難しい。
- ・自生地と言っても人間の適度な干渉が大事だ。種は2, 3センチの深さに植えること、発芽前の草刈り、病虫害・ウイルス病対策、日照への配慮などだ。支柱も球根を傷つけないように。
- ・友情の山にはキンラン、フタリシズカ、エビネなど他にも貴重な山野草がある。これらを含めて管理、育成して欲しい。



公社部会、共同キッチンの運営者募集

県住宅供給公社部会（薮健夫部会長）が百合が丘商店街の空き店舗で計画している共同キッチン（コミュニティダイニング）への参画者を募っている。共同キッチンは百合が丘地区の魅力アップの一環として計画しているもので、公社は他の地区でも同様の事業を軌道に乗せている。参画者の見通しがつき次第、店舗改装などに着手したいとしており、一色小学校区内に限ることなく募集していく。

共同キッチンの基本コンセプトは、地域住民が自由に使い、「食」「食文化」を通じて住民同士の交流を図るいわば「地域の囲炉裏端」。飲食サービスを提供するための施設、備品などは公社が整備し、運営は各事業者任せ。複数の運営者が定期的にサービスを提供するスタイルを基本形に、①買い物をした帰りにちょっとお茶を飲めるようなスペース②料理を通じてコミュニケーションを採れるような場所③食育を支援できる場所——などを事例として上げている。

これまで百合が丘地区社協など、関心を示すグループを対象に事前打ち合わせなどを行ってきたが、公募の対象を全町に広げ、事業説明に入りたい考えだ。

同部会では、この企画に関心のある方は公社二宮団地現地事務所（0463-80-9800）までコンタクトして欲しいとしている。

地域課題検討部会も始動

6つの事業部会の中で立ち上がりが遅れていた地域課題検討部会（廣上正市部会長）も7月に入って相次いで会合を開いた。7月5日（火）の第一回に続き、第2回、第3回にはそれぞれ薮健夫県住宅供給公社専務理事、野口和雄都市計画コンサルタントを講師に招いて提案を聞く。その後、外部識者の提案を踏まえたメンバー間の意見交換を本格化させる。9月中には来年度以後、数年かけて取り組むべき事業テーマの一次案をまとめたとしている。